平成26年度第1回一宮市子ども読書活動推進懇話会・
第1回子ども読書活動推進会議合同会議 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成26年8月1日（金）午後1時30分～午後3時45分
- 2 開催場所 中央図書館 6階 多目的室1
- 3 出席者 懇話会委員 10名
推進会議委員 14名（欠席1名）
事務局 7名

4 議 題

- (1) 一宮市子ども読書活動推進計画の成果について
- (2) その他

5 開会

事務局が開会を宣言

教育長挨拶

懇話会会長挨拶

以後の議事進行は、一宮市子ども読書活動推進懇話会設置要綱第5条に基づき一宮市子ども読書活動推進懇話会会長が務めた。

6 会 議

(会長) 議題(1)について審議願います。

(事務局) 議題(1) 一宮市子ども読書活動推進計画の成果について、一宮市子ども読書活動推進計画(第2次)施策体系及び平成26年度子ども読書活動推進関連事業における取り組み状況表により施策事業ごとに事業成果について説明。

(委員) 読書活動推進の基本姿勢が非常に良く出ていて具体的にどんどん進んでいっているなという感触は持ちました。様々な分野であらゆる方策を考え出して、とにかくそれを実践するという姿勢が貫かれていまして、私もこれは同感でして、それで誤りとかがあれば、その都度修正していけば良いものだろうと思っています。例えばリサイクル本、除籍本の活用については、非常にいい形で再利用して、お金を一銭も使わずに効果をあげているという面では、非常に効果的だと思います。それからボランティア活動のほうですが、2、3年前に比べてボランティアグループ間の関係が非常に良くなっているようでして、図書館の職員とのタイアップによって、スムーズに作業がなされて、非常に効果的に運用されているように思います。

それから啓発活動の問題も色々な事をやってみえて、例えば、啓発活動の一つの「よむりん」が、読書通帳という新たな発案がなされていて活躍していますし、「子ども読書のまち宣言」もカットを入れて非常に見やすくして皆に訴えかける、こういったことも非常に大きな前進であろうと思っています。

学校の役割の中で良書の紹介とありますが、一番大事な原点は、子ども達がいかにたくさんの本を読むか、読むことによって自発的に良書を自分で選び抜いてくる、子ども自身が自身の身の丈にあった良書を見つけ出すということだと思います。児童生徒による読書活動の推進は、そのための手助け、大人が主体ではなく子どもが主体ですが、それはバックアップする意味で書かれていると同感しています。

- (委員) 取り組み状況の子ども読書の日記念行事の木曾川図書館の分ですが、26年度の実績がもしわかりましたら教えてください。それから2点目ですが、子ども文化広場図書館の子ども読書の日記念行事ですが、23年度から同じ様な取り組みで具体的な事業内容が記載され、日にちも同じ様な土日で開催されていますが、人数が減ってきています。何か原因となるようなことがありましたらお教えてください。
- (事務局) 子ども読書の日の木曾川図書館の26年度の実績については、4月26日(土)、27日(日)、5月10日(土)の3回開催いたしまして、参加人数は41人です。子ども文化広場図書館につきましては、貸出実績等から推測しますと中央図書館が25年1月10日に開館した影響が少し出ているのではないかと思います。子ども文化広場図書館としては例年以上にPRに努め、またボランティアの方々にも格別のご協力をいただいているわけですが、少しずつ中央図書館を利用される親子の方が増えてきているのではないかという傾向が若干影響として現れてきているように思います。
- 事業として実施している内容は、その年その年検討して実施させていただいていますが、中央図書館の子ども読書の日行事については、25年度と26年度では開催日を変えて実施し、図書館間で影響が出ないように対応しているところです。ただ、こうして実際に参加人数が減ってきているのは事実ですので、たくさんの方に来ていただけるよう検討していきたいと思っています。
- (会長) 目標値及び進捗状況について地域の役割で児童館・保育園への除籍本等の配布で、23、24年度と53園、50園ともらっていたのが、25年度は、35園と減っているのは、保育園で図書購入費がある程度多くついて除籍本等がいらなくなり減ったのでしょうか。
- (事務局) 24年度までは子ども文化広場図書館で配布していましたが、25年度は中央図書館での配布で、配布場所について十分な周知ができていなかったことと配布時期についても限定していますので、今後は来館いただけるよう配布時期を検討していきたいと思っています。
- (会長) それから学校の役割で児童生徒一人当たりの1か月間の読書冊数ですが、低学年は24年度と比べて25年度かなり増えていますが、高学年、中学校が横ばいとなった理由ですが、学校行事と関連して増えたとか減ったとかありますか。
- (学校教育課長) 冊数調査ですが、その背景までは調査させていないと思います。その時に、低学年のほうでいい本が入れば子ども達はどんどん読みますので、普通はあっという間に読んでしまいます。それだけこの年齢の子は読書意欲の向上があったと思ったほうがいいのではないかと思います。逆に高学年・中学校は、ほとんど本の内容に入ってきますので、なかなか冊数は上がらない、でも、それが決して読書が低下しているとは思いませんので、もし、その背景を探るのであれば、冊数とともに何らかのアンケートをとらないと内容は見えてこないと思います。
- (会長) 小学校の低学年の子ども達は学校図書館の利用を控えてもらっていて、2年生か3年生ぐらいになってから利用してもらうところがあると聞いたのですが、例えばそういう事例を無くして1年生から学校図書館を利用してもらうから冊数が増えたとかいう訳ではないのですか。先程、先生がいわれたように、冊数の調査だけであって、内容についてまでの調査はしてみえないと理解すればよろしいでし

ようか。

(委員) 確かに1年生、2年生、3年生から図書館利用というところは学校規模によってありますが、そういうところについてもできるだけ1年生、2年生も借りられるようにと進めています。これは急激に25年度に増えていますので、傾向としては会長さんが言われたように、1年生、2年生でも借りられるようになったところは1年に何校ずつか増えていると思います。

また、その年によって取り組みの状況、読書期間の啓発の仕方によって随分違ってきます。それから、変な話、天気にもよります。天気が良いとどうしても子ども達は屋外へ行きます。

それからどんな本を読むかということもありますので、冊数だけではなかなか計り知れないものがあります。

中学校からは読書期間について、テスト期間中にテスト勉強はしろ、その時に本も読めはどうなんだという問題もありますので、時期を考えていかなければいけないなと思っています。そうしたことも若干、中学校の冊数の伸び悩みにも出ています。

(委員) 関連してですが、もう5年も6年も前から毎回言っていることですが、中学生の不読率が毎回問題になっています。やはり勉強が忙しいとかということでした。今思うとそれは言い訳でしかないと、先程おっしゃったように、中身の濃いものを読むとか、密度を高めて読むとか。具体的には、子どもに読んで欲しい図書の情報発信の継続・強化のところに、中・高校生向きの図書資料を集中配架し、読書推進事業を展開するということが書いてあって、中央図書館では、6階にティーンズコーナーを作って目立つようにして、それだけの効果もあげているようです。どんな理由があろうとそこに不読率という穴が開いていて、そこに焦点を合わせて穴埋めすべく封をしているのが、今回初めてなのではないかなと、これだけ具体的に穴埋め作業が功を成しているような気がします。やっと実の伴うことになってきていると思うので、これについては、今後とも穴埋め方式で弱い所があったらそれを埋めるべく皆で検討してやっていけば、多少なりともそういったところも無くなっていくのではないかと考えています。

(委員) 子ども読書の日の子ども文化広場図書館の参加人数が随分減っているのではないかとこのことですが、この点はどこを特化していけばいいのかとボランティア自身も考えています。

市図書館の役割として、ティーンズコーナーの設置で中央図書館と木曽川図書館がありますが、子ども文化広場図書館でも3階に1、2年程前から臨時職員さんがすごく力を入れて、そういうコーナーを設置してくださって、見取り図とかも描いてくださって、階段や壁とかに貼って、すごく努力をしています。ここに数字としてあがってきていないのがちょっと残念かなと思っていますが、子ども文化広場図書館でもそういった努力をしていただいているということをお知らせしたいと思います。

(委員) 図書館読み聞かせボランティアのネットワーク化の推進の25年度のところで、市内ボランティアグループ10団体と出ておりますが、24年度までは10団体でしたが、25年度から中央図書館に新しくボランティア団体が4グループ増えて14団体となっています。今年度はまだ実績が載っていませんが、もう1団体

増えて15団体で意見交流会を開催しています。

(委員) 中学生の不読ということで、昨年度、中央図書館でビブリオバトルという取り組みをされました。その時に中学生の参加が何人かあったと伺っています。ビブリオバトルという内容の性質上、本をしっかり読まれた中学生の方が、自分の気に入った本を紹介するということが、中学生の間に広まって行って、各中学校にもこういう本が紹介されたということが伝われば、その年代の子ども達にとって意義のある紹介の仕方だと思いました。

同年代の子ども達の声というのは、子ども達にとって身近なものだと思います。例えば、中央図書館の5階のフロアに入ったところに、子ども達の推薦の本の紹介文を貼るとか、職員の方に渡したら貼ってくださるかすると、子ども達はこういう本を友達に読んでいるだっということになって、自分もその本を読んでみようと思います。

また、紹介文を書いた子が、学校の図書室で、中央図書館に自分の書いた紹介文が貼ってあるということがわかり、さらに家庭にも伝わると、ご家庭の方が中央図書館や各図書館に足を運んでくださるのではないかと思います。そういう学校と図書館と家庭が行きかうような、本を紹介する取り組みがあったらいいかなと日々感じています。

(委員) 今言ってくださった推薦図書の関係は、6階の奥の方でティーンズコーナーにあるのですが、もうちょっと目に付くところにあるといいなあと、せっかく書いてくださったのに本当にもったいないかなと感じています。

あと未実施の学校図書館及び関係者との情報交換、交流の促進が、昨年からも未実施です。子ども読書のまち宣言をしたということだけではなく、まず未実施の部分をやっていくといいなと思いますので、色々な努力をしてくださっているとは思いますが、是非ブックスタートの強化も前から出ていたと思いますので、その辺りも含めて子どもの読書に集う大人たちの想いが形になっていくといいなと思いました。

それから、学校ボランティアさんのことですが、尾西図書館で学校ボランティアさんのみネットワーク化をされ、講演会もされているということで、ここに数字があがってきておりますが、是非これが一宮市全体の学校ボランティアさんのレベルアップ、学びの場になっていくといいなと切実に思います。実際にやっている方々が学びの場がないということで、ぜひ学校教育課にも応援していただいているといいなと思います。

(事務局) 尾西図書館では、学校ボランティアグループの会合や情報交換等の場所をお貸しているということで、図書館の方が先導的に実施をしているものではありません。学校図書館でのボランティアさんを図書館ボランティアグループさんの勉強の場と一緒にできるような事ができないかは、連携ということが必要になってくると思います。なかなか連携というのが上手ではなくて、できていない部分がたくさんあると思います。先程おっしゃっていただいたブックスタートの強化、これも図書館だけではできない話で、こうした連携という部分が欠けているところが見受けられますので、そういったところを充実していくことで未実施を実施に変えていけるような努力をしていきたいと思っています。

(委員) 図書館ホームページについてですが、久しぶりにホームページから本の予約をし

ましたところ、今までは電話で「入りました」という連絡があったのですが、今回から、メールで配信されるようになったということを知りまして、すごくホームページが便利になったなあと感じ、もっとPRして皆が使って欲しいなと思いました。それと関連しまして、ブックスタートの時に、若いお母さん達と話してみると、図書館ホームページについては知らないとか、あまりホームページを見た事がないとか、ホームページで予約をしたことがないというお母さんが多くて、この中央図書館にはよく来るし、隣にある子育て支援センターもよく使われるし、各地区にある支援センターもよく行くという話は聞きますので、せっかくそういう所にはよく行くということですので、そういう所でもっと図書館のPR、ホームページがこんなに充実していて便利だということを支援センターでもできないかなと、ぱっと見てわかるようなものがあるといいなとお母さん方と話をして思いました。

もう一つ、読書通帳を見ていて、最後の所に「この通帳に期限・景品はありません」と書いてあってがっかりしましたが、ブックスタートの時にシールを渡しますが、ただ4か月の赤ちゃんにシールを渡してもお母さん方は色々な資料が多くて全然喜ばれないです。せっかくですので、ブックスタートを無しにして代わりに読書通帳を持っていったらシールをもらえるようにしたらいいなと感じました。

(事務局) 図書館のホームページは、利用者の意見を反映させて随分と情報量を増やしてきているところですが、十分なPRができていないというのは、今言われた通りですので、見ていただけるような案内があれば、ご覧いただけるのかなと思いますので、ご意見を参考とさせていただきます。

また、読書通帳の景品についても検討いたしました。それだけを目的にされるということがありますので、図書館が望んでいることはそういうことではなくて、本を読んでいただいて、知識あるいは心に残るものとして蓄積していただきたいと思っています。

(委員) しおりの他にもうちょっと小さい子が喜ぶようなよむりんの人形を作ってあげたら喜ぶますよ。工夫すると色々あるような気はします。

中央図書館7階展示コーナーに一宮の産物、野菜など色々できる過程とかの本が置いてあって、いいなと思って感心して写真を撮ってきました。こうした取り組みにより、本で調べることによってどんどん本が好きになっていくことです。学校の夏休みの課題とかでも何か一つ調べて来いというのがあるようですが、そういうものにも活用されるといいかなと思いました。

(事務局) テーマ展示という企画は、委託業者である図書館流通センターが、だいたい2ヶ月に一つのテーマで企画をして、5階、6階、7階のそれぞれで展示をしています。特に郷土関係の展示は7階で行っていますので、今回は一宮市の特産物ということで実施させていただいています。テーマ展示の紹介につきましては、ホームページ中に写真を付けたりして載せておりますが、そうしたものをみていただいて来館いただけるような取り組みが必要だと思います。

(委員) ホームページと言えば、子ども読書の日の催し物も各図書館それぞれ趣向を凝らしたご案内を出されていて、ただそれがそこに出ているということが、なかなか周知されていない気がして気付かないでいられる方もいらっしゃると思いますが、本当

にイラストが入っていて、楽しい、子ども達が行ってみたいと思うような画面を作ってくださいしています。先程子ども文化広場の参加人数が少し減ってきているのではというお話もありましたけれども、そういうホームページでの活用、誘いがけというのもいいかなと思いました。多分いろんなことをホームページでご案内していただいていると思うのですが、市民の皆さんが図書館のホームページを見て情報を得たり楽しんだりするところ、周知されていないのは勿体ないですね。

(事務局) ホームページでのPRはもちろん行っていますが、市広報や図書館だよりでもおはなし会等の行事については案内しています。その他にタウン誌の「くれよん」、「咲楽」にも掲載させていただいています。利用できるものについては利用させていただいておりますけれども、まだまだ十分でないところは、これから充実をしていきたいと思っています。

(委員) PRの話ですが、色々なお店へ行きますとLine始めましたとか、Facebook始めましたとか、本当にペタペタ貼って、QRコードがあったりします。今、誰でもスマートフォンとかで直ぐにそこへアクセスできるようになっていますので、色々なところにいっぱいお知らせがあるのでそういうものがあると、QRコードで読んで、見てみようかなという気になるかもしれないというのは思ったりします。

(事務局) 図書館ホームページの中にはQRコードがあって、携帯でも見ていただけるようにはなっていますが、そのQRコードを図書館内等では貼り付けていないので、そういった点も抜けているところかと思っておりますのでこれから取り入れていきたいと思えます。

(委員) 情報誌として3か月ごとに青年の家でボランティアさんが「キッズi」を作成し、全小中学生に配布されています。子ども達の手が届くわけです。「キッズi」というのは、その季節の催し物が載っていて、最終ページ一面に図書館の案内をしてくれています。とても見やすく、全小中学生に届いているので活用していただきたいなということがあります。ホームページももちろん大事ですが、それとやはりお母さん達へお知らせをするというために学校の方に子ども達ひとりひとりにお渡ししているの、是非学校の方では皆さんに手渡していただきたいと思えます。そして、私達ボランティアも子文のフェスティバルやおはなし会をする前には、必ずちらしを作って各園でお渡ししています。口頭で目を見てお誘いがけをしていますので、どうぞよろしくをお願いします。

(委員) まず1点目の質問ですが、取り組み状況の保育園の保護者への絵本の貸出率という項目がありますが、かなり高い数字が出ているようですが、この貸出率の計算方法はどのような出し方をしていますか。

(保育課長) 公立保育園53園で、いくつの園が保護者に絵本の貸出をしているかということです。25年度の調査は53園中50園が貸出を実施しています。あと3園が実施していませんので、今後そこが実施すれば100%ということになります。

(委員) はい、わかりました。ありがとうございました。では後2点意見をお伝えさせていただきます。この取り組み状況の図書館体験の場、機会の充実・拡大のところに、中央図書館の夕涼みおはなし会のことが載ってしまっていて、今年もあるという

ことで、この間、本を娘と借りに行ったときに、司書さんからあるから来てねとプリントをいただいて、夕涼みおはなし会以外でもビブリオバトルの時とかも、司書さんがすごくお誘いしてくださるんですね。返す時とか借りる時とかに。それがとても嬉しくて、これからもただ本の貸し借りだけではなくて、声かけを続けていただけると嬉しいなと思います。ただ、図書館に馴染みのない親子の図書館利用につなげるという点ですが、先程から出ている周知の話、PRの話になっていきますが、この夕涼みおはなし会を七夕まつりの時とかの普段駅周辺に来ないような人達が集まっている時に、1階に降りて行って、今日やりますよとPRをする、お祭りの後に図書館で涼んでおはなしを聞いていこうかみたいな流れにしていくと、今までは知らなかった人達が来るのではないかと思います。前から図書館が駅の中に入ると聞いた時から七夕まつりと繋げるということを考えていました。

最後にもう一つブックスタートの事業の発展・強化が未実施ということで、すごく勿体ない気がします。広報も普段あまり読まないし、文字が書いてあるものもあまり読まないのだけれどもというような人達が図書館に来るきっかけになるというのは、全部の親に働きかけられる機会としてのブックスタートであり、健診であると思うので、その機会を逃さずに、是非活用していただけるといいなと思いました。もちろんブックスタートは進捗状況 100%というすごい数字がでていて、十分努力されて良い結果が出ているのだと思いますが、さらにその後のフォローアップがあると益々いいのではないかと思いますので、是非お願いします。

(事務局) 今ご意見いただいたことについては、検討していきたいと思います。

(委員) 学校図書館で本の予約ができないということを聞いていますが、学校図書館内でも本の予約ができるようにということはできないのでしょうか。中央図書館とかはありますが、学校図書館内だけでは実施されていないとか。人気があると全部貸出中になってしまう本の予約です。

(学校教育課長) 学校図書館のシステムには、貸出のシステムはありますが、予約を入れていくプログラムがありませんので、基本的には人の手でやるしかないという部分です。なかなか予約までは今のシステムではできないし、逆に迷惑をかけてもいけませんので、図書がある時にお貸しするというシステムになっています。

(委員) そうですか。あともう一つ、公立保育園の図書の充実をもう少し図っていただけたらなと思うのですが。

(保育課長) 蔵書整理をいたしますと、かなりの冊数を捨ててしまって、それに見合う購入冊数が追いついていないという部分はありますが、やはり保育園各53園あるうち園児の在籍数にもかなり差がありますので、一人当たり20何冊ある園もあれば1冊ぐらいしかないというような園もありまして、平均したらこの4冊ということになっています。園によって冊数が充実していないところは、今後しっかり購入して増やしていきたいと思います。

(委員) 園に移動図書館みたいなものを回していただいてもいいのではないですか。

(保育課長) 保育士が図書館へ出向きまして、かなり絵本とか紙芝居を借りてきて読み聞かせしていますので、冊数が少ないから本を読んでいないということではありません。しかし、子ども達が本を読みたいといって本を手にとれるような環境を整え

ていくという点では、購入していくことも必要だと考えております。図書館で本を借りて読むということは、どの園もしています。

- (事務局) 図書館では、団体利用ということで1か月間100冊を限度でお貸していますので、それを利用いただいているということで、有効的な利用ができていると思います。
- (会長) 他はよろしいですか。色々言っていただいた意見を参考にして、第2次子ども読書活動推進計画を推進していただければと思いますのでよろしくお願いします。では、議題(2)その他について事務局より説明を願います。
- (事務局) 議題(2)その他について子ども読書活動推進に関係する今後の図書館の事業について第2回子ども読書サミットの開催、子ども読書のまち宣言啓発ポスターの募集、その優秀作品を中央図書館始め各図書館において作品展を開催すること、読書通帳を各小中学校の児童生徒に1冊ずつ配布予定であることを説明。
- (委員) 読書通帳は、小中学生だけではなく、未就学児でもカウンターで希望すればもらえますか。
- (事務局) 保育園、幼稚園での配布を予定しておりませんが、図書館にいらっしやって、未就学児用の仕様にはなっていませんが、もしご希望であればお渡しいたします。
- (委員) 小学校で100冊読むというような学校の中でも図書館活動をやっていますが、学校で借りた本は別ですか。市内の図書館で借りた本だけですか。
- (事務局) このことにつきましては、学校図書館活用推進の先生方とも相談させていただきまして、この読書通帳と一緒にすると混乱が起きるとということと、図書館で借りた本を書いていただき図書館に持ってきていただくということで、学校の図書館だけではなく公立の図書館にもいっぱい良い本があるということを知っていただくというのも目的一つのです。しかし、学校図書館の本を書きってしまったからと言って後で消してくださいというところまでは考えていませんし、本を読んだ子ども自身の覚え、蓄えにさせていただくという考えでいます。
- (委員) 最後の「この通帳に期限、景品はありません」という但し書きは、「この通帳に期限はありません」だけで、「景品」はないほうがいいのではないのでしょうか。
- (事務局) 読書通帳を持って来ると何か貰えると期待される方が多いようですので、今後実際に始めてみまして色々なご意見を伺いながら、また新しい物を印刷する際には、考えていきたいと思えます。
- (委員) 30冊読んで新しい通帳に替えてもらった子の、例えば名前、個人情報もあって色々難しいかもしれませんが、そこの図書館に今月はこれだけの子が30冊読みましたよってというような掲示は難しいのでしょうか。きっと子ども達はうれしいと思うのですが。
- (事務局) 個人情報関係におきまして、名前までは今の時代難しいかと思いますが、今月は何人新しい通帳を貰われた方がいるということは検討したいと思っています。
- (委員) 本人がよければ、どこか目によく付くところに掲示するのはいいわけですね。
- (委員) だれだれ君とかだれだれさんとか。名前だけね。
- (委員) 最近、個人情報にこだわり過ぎているような気がします。
- (委員) 読まれた本の題名を書いて、どんな本が読まれたかというようなことを掲示しては。
- (委員) 面白かった本ベスト5も入れた集約したものを。

- (委員) 何らかの形でこの図書館の場に読んだというものが残っていくものがあるといいかもしれませんね。
- (委員) 苗字だけでもいいですね。例えば、どこの小学校の何年生のだれだれさんがと書かれていれば。
- (委員) 名前が出るというのは、本人さんが嬉しいことだから、ニックネームでもいいから本人にどういうふうに掲載しましょうかとかお聞きしたら。
- (委員) 本当にフルネームとか学校名とか学年とか出してしまっただけで特定されて、それを悪用されるということも今時いろいろなことを聞きますと考慮されるのもわかりませんが、せっかく30冊読んで新しい通帳をもらったなら、きっとすごく嬉しくて、何らかの形で図書館に掲示していただけたらいいかなと、子ども達が喜ぶかなと思いました。
- (事務局) 読書通帳についてのご意見ありがとうございます。30冊読んだ人の名前の掲示については、個人情報上の難しい時代です。例えば子どもさんが見えていいと言っても保護者はまた別の考えをお持ちかもしれませんし、なかなか難しい面があるかと思っておりますので、今後の検討課題にさせていただければと思います。また、どの本が良かったというのも、図書館としては興味のあるところではございますが、この通帳はその場ですぐお返します。分析がなかなか難しいように思いますので、それについても今後の検討課題にさせていただければと思います。始めてみて色々なご意見等伺いまして、第2弾の際には、より良いものにしていきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。
- 次に、11月1日に中学生向けのビブリオバトルを開催する予定です。どんな形でできるのか、今色々検討中です。なるべくこれからの発展につながるようなビブリオバトルにしていきたく考えていますのでよろしくお願いいたします。続きまして、次回の開催ですが、合同会議ではなくて子ども読書活動推進懇話会として来年の1月、2月頃を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。
- (委員) ボランティアグループとの連携・協働で、おはなし会の人数とか事業内容が各図書館の表記が異なると感じました。子ども文化広場図書館は、「4団体により、絵本や紙芝居、ストーリー・テリングを行う」と一枠ですが、尾西や木曾川図書館はボランティアグループごとに書いてありますが、何かこれは理由がありますか。
- (事務局) 今回の資料につきまして色々不十分な点がございました。次回は、精度を上げた資料にしたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。
- (教育長) 長時間にわたり貴重なご意見、ご提言ありがとうございます。本当に最後の最後まで色々なアイデアを出していただきましてありがとうございます。色々な面であるほどと思うことがたくさんございますので、なるべく良くなるようにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。
- (会長) どうもありがとうございました。本日予定されておりました議題はすべて終了しました。長時間に渡りありがとうございます。